

第3章 地域マップによる地域課題の分析

この章では、少子高齢化を直感的に捉えられるように、第 2 章で掲載した将来推計のデータをマップでビジュアル化している。

具体的には、まちづくりセンター区域ごとに、平成 22（2010）年度（国勢調査）を基準年として、将来に向かって 5 年ごとの人口推移をマップの色づけで表現している。

マップで表示しているまちづくりセンター区域の名称は下記の図 13 のとおりである。
次ページ以降のマップでは地域名称を省略しているので、適時図 13 を参照されたい。

【図 13 まちづくりセンター区域】

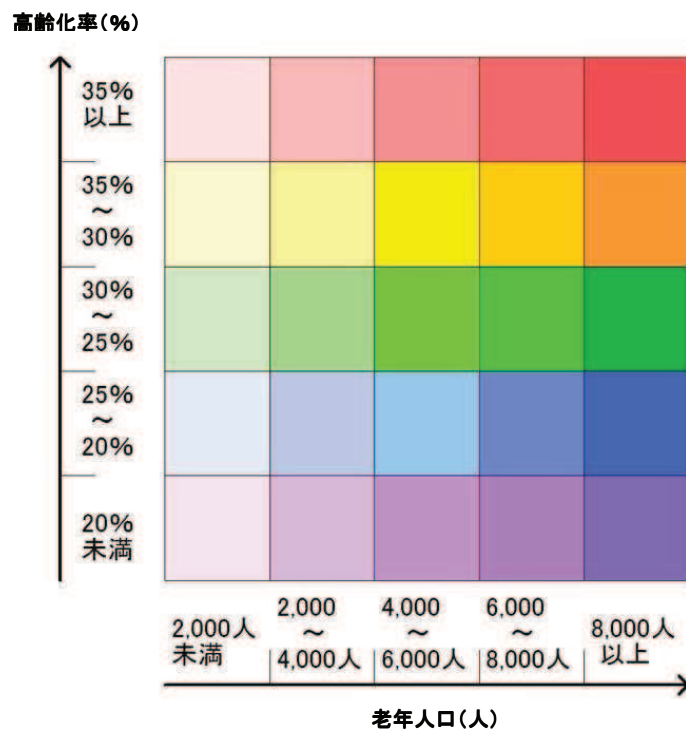


1 札幌市における高齢化の進捗

本調査・研究では、地域構造の変化において最も大きな要因となる各まちづくりセンター区域の高齢化の状況を推計し、その変化を5年ごとの周期で変遷を捉えることとした。マップの色付けについては、横軸にまちづくりセンター区域ごとの老年人口を、縦軸に高齢化率の状況で色分けした。

高齢化率は、20%から5%刻みの5段階（紫→青→緑→黄→赤の順）で変化させ、老年人口は、2千人刻みで濃淡を変化させた。

このことによって、赤色に近づくほど、高齢化率が高くなり、またその色が濃くなるほど、老年人口が増えることを示す図となっている。

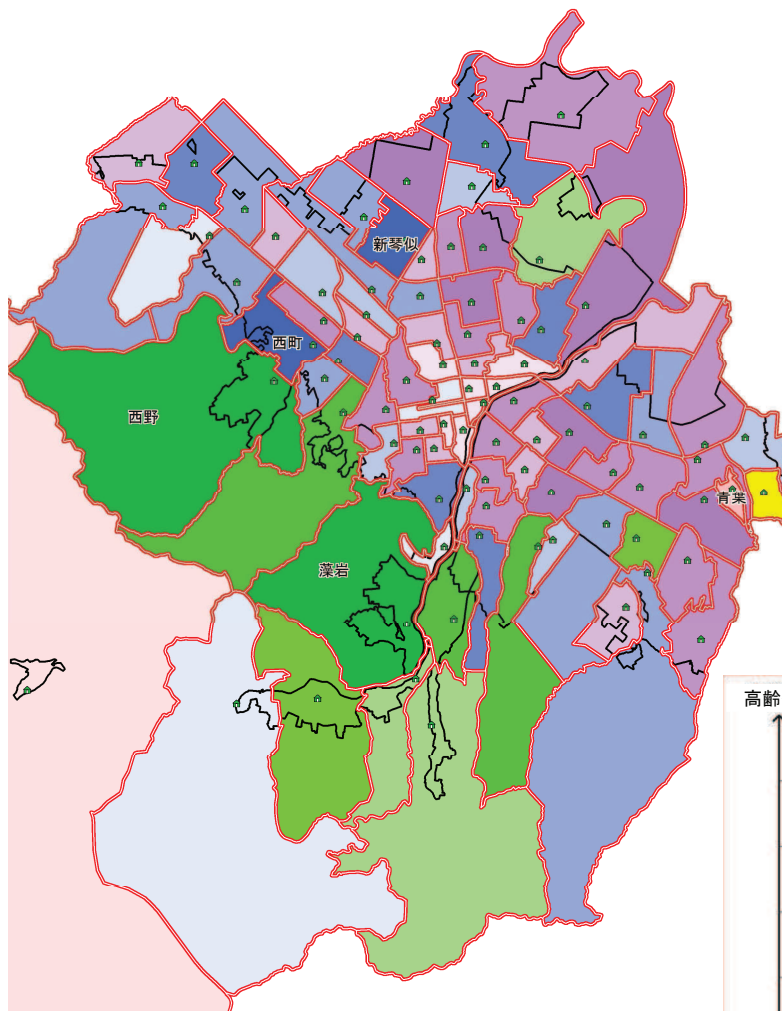


また、各年度における全市の老年人口及び高齢化率を、「●（赤点）」で表示し、各年度の5年前の老年人口及び高齢化率を「○（白点）」で表示することとした。このことによって、将来推計数値をもとに5年ごとの札幌市の平均がどのように変位するか図示による把握が可能となっている。

なお、色付けにおける赤線で囲まれた部分については、当該年度に札幌市内のいずれかの区域がプロットされている範囲であり、この分布及びその変位は、札幌市の分布状況を把握する指標として見る事が可能である。

【図 14 まちづくりセンター区域別高齢化の展望】

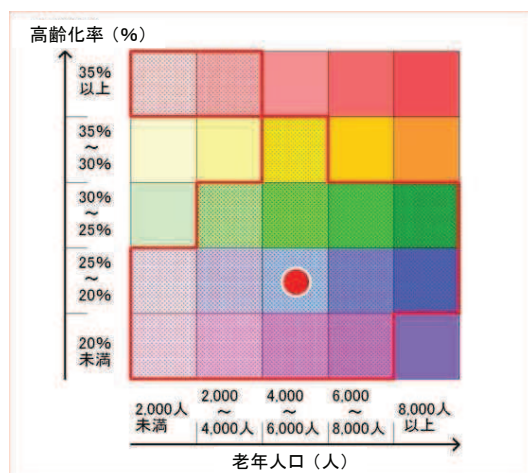
平成 22 (2010) 年度 (国勢調査)



解説

左図は札幌市の高齢化の現状を表している。

高齢化率 25%を超える地域が市内南西部に特に多いことがわかる一方、北区や西区などには平均的な高齢化率でありながら、老年人口が顕著に多い地域があることがわかる。



■札幌市平均■

・老年人口 4,503 人

(まちづくりセンター区域単位)

-特に老年人口が多い地域

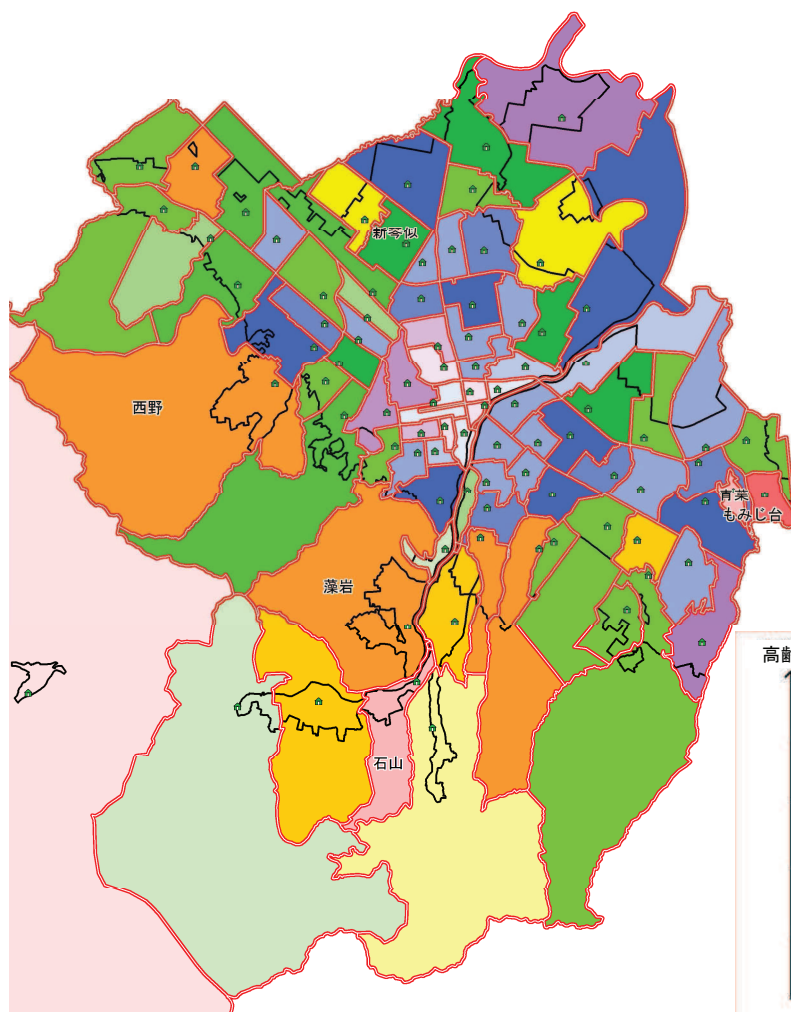
新琴似 (9,688 人)、藻岩 (9,896 人)、西町 (8,926 人)、西野 (9,872 人)

・高齢化率 20.7%

-特に高齢化率が高い地域

定山溪 (35.7%)、青葉 (35.1%)、もみじ台 (33.2%)

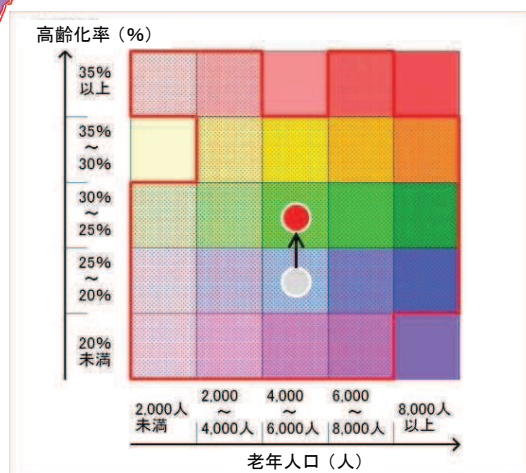
平成 27 (2015) 年度 (札幌市推計数値)



解説

高齢化率が平均 25%を超え、郊外部を中心に30%超の地域（緑、黄、赤）が目立つようになる。

地下鉄沿線や近年、住宅地開発された一部の郊外では、利便性を求める若年層や子育て世代の流入などで高齢化率が平均を下回っている。



■札幌市平均■

- ・ 老年人口 5,587 人 (平成 22 (2010) 年度対比 +1,084 人)

(まちづくりセンター区域単位)

-特に老年人口が多い地域

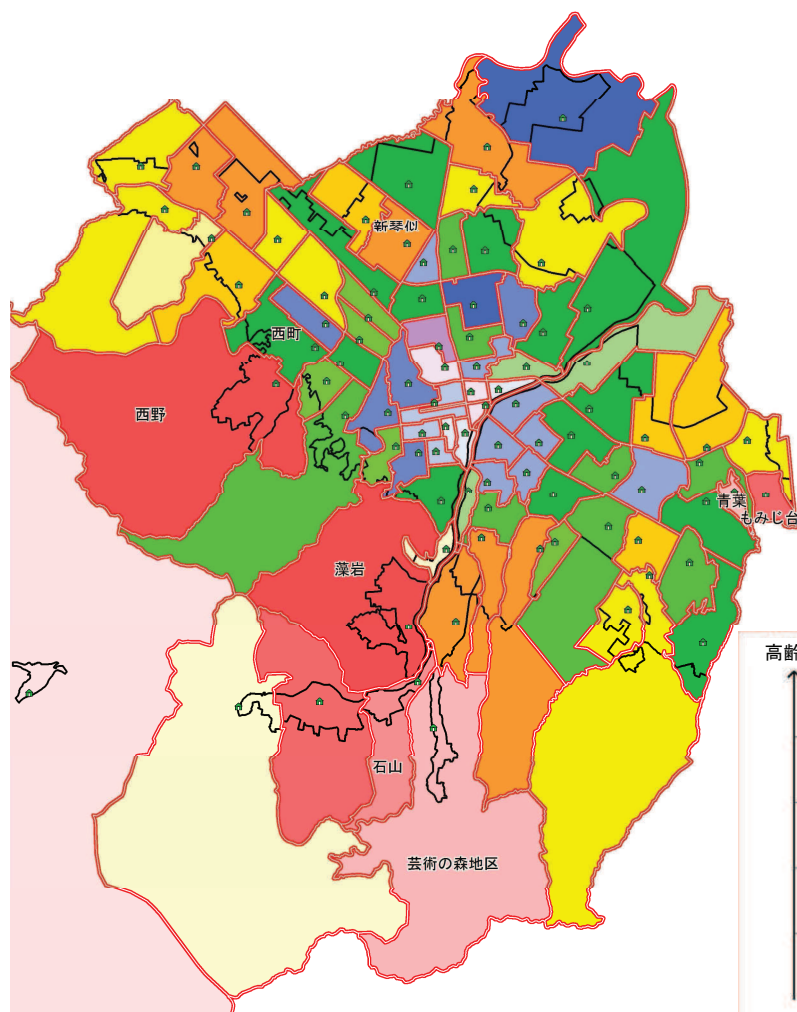
西野 (11,960 人)、藻岩 (11,940 人)、新琴似 (11,910 人)、西町 (10,930 人)

- ・ 高齢化率 25.4% (平成 22 (2010) 年度対比 +4.7 ポイント)

-特に高齢化率が高い地域

青葉 (43.3%)、定山溪 (43.0%)、もみじ台 (39.2%)、石山 (35.9%)

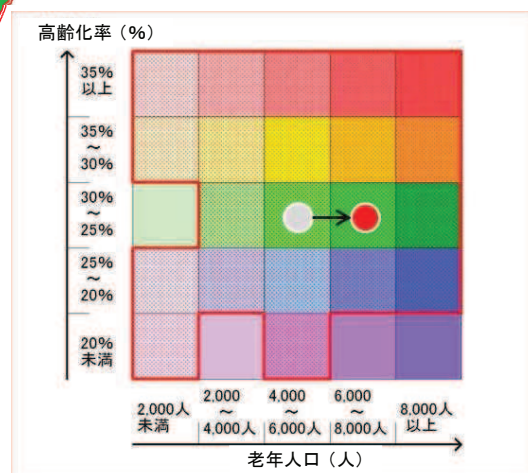
平成 32 (2020) 年度 (札幌市推計数値)



解説

高齢化率 25%未満の地域（青や紫）が地下鉄沿線と北区の一部に限られ、郊外部に至っては40%を超える地域も複数存在するようになる。

また全体として老年人口も増加し、色合いが濃くなっていることがわかる。



■札幌市平均■

- ・ 老年人口 6,314 人 (平成 27 (2015) 年度対比 +727 人)

(まちづくりセンター区域単位)

-特に老年人口が多い地域

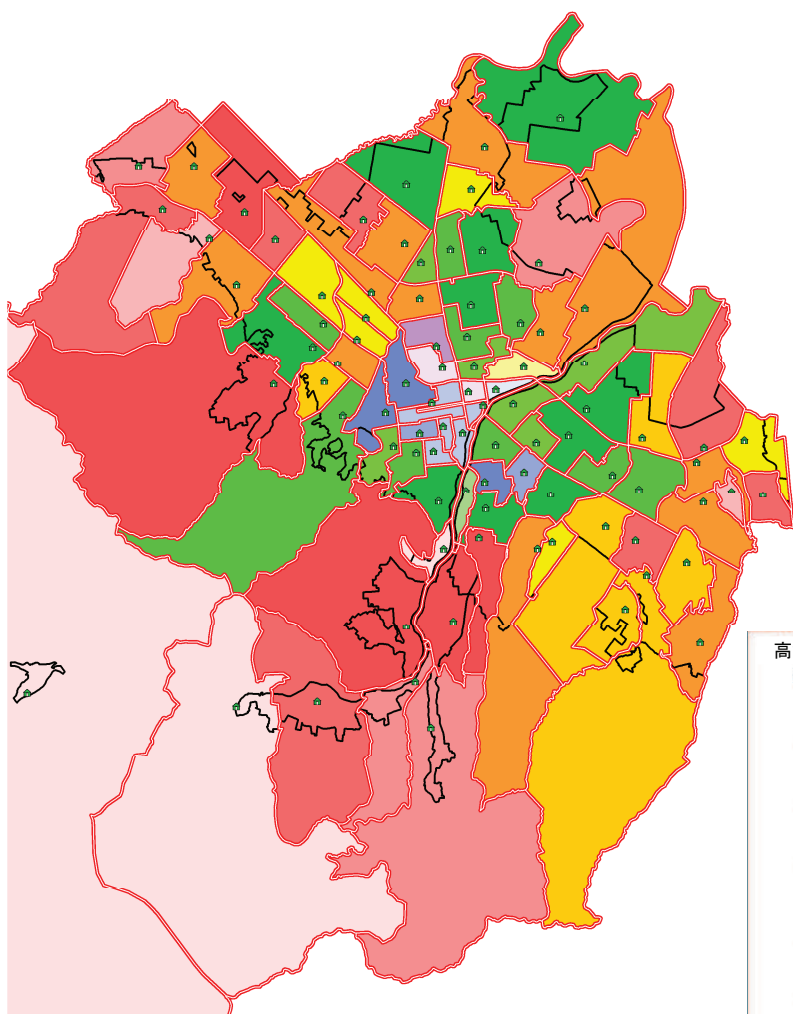
藻岩 (13,190 人)、新琴似 (13,090 人)、西野 (12,940 人)、西町 (12,280 人)

- ・ 高齢化率 28.8% (平成 27 (2015) 年度対比 +3.4 ポイント)

-特に高齢化率が高い地域

定山溪 (47.6%)、青葉 (46.8%)、もみじ台 (42.2%)、芸術の森 (40.1%)

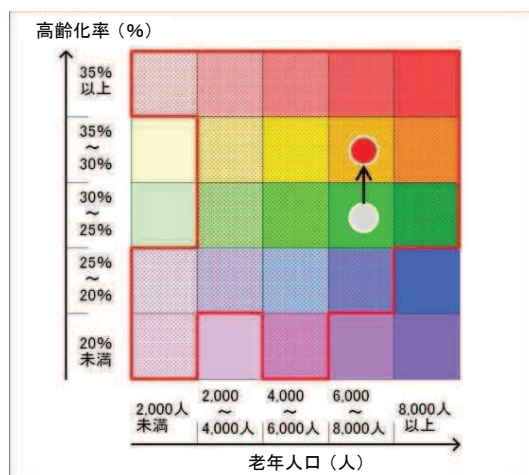
平成 37 (2025) 年度 (札幌市推計数値)



解説

高齢者の増加傾向がやや鈍化しはじめるものの、市平均が 30%を超え、南西部以外にも 3 人に 1 人が高齢者という郊外部が増えてきた。

郊外部の高齢化を見ると手稲区や清田区が一樣に黄色や赤色になり、高齢化率 30%を超えている。



■札幌市平均■

- ・ 老年人口 6,697 人 (平成 32 (2020) 年度対比 +383 人)

(まちづくりセンター区域単位)

-特に老年人口が多い地域

藻岩 (13,430 人)、新琴似 (13,400 人)、西野 (12,990 人)、西町 (12,910 人)

- ・ 高齢化率 31.0% (平成 32 (2020) 年度対比 +2.2 ポイント)

-特に高齢化率が高い地域

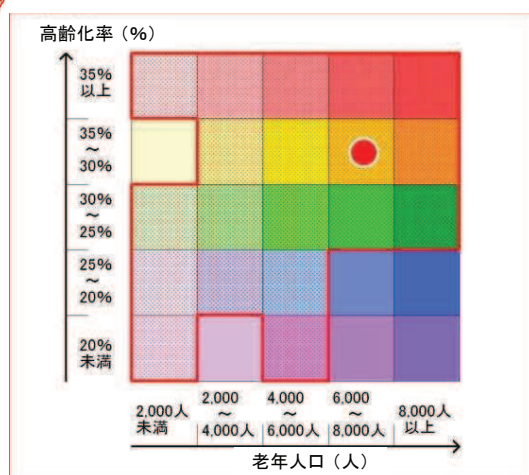
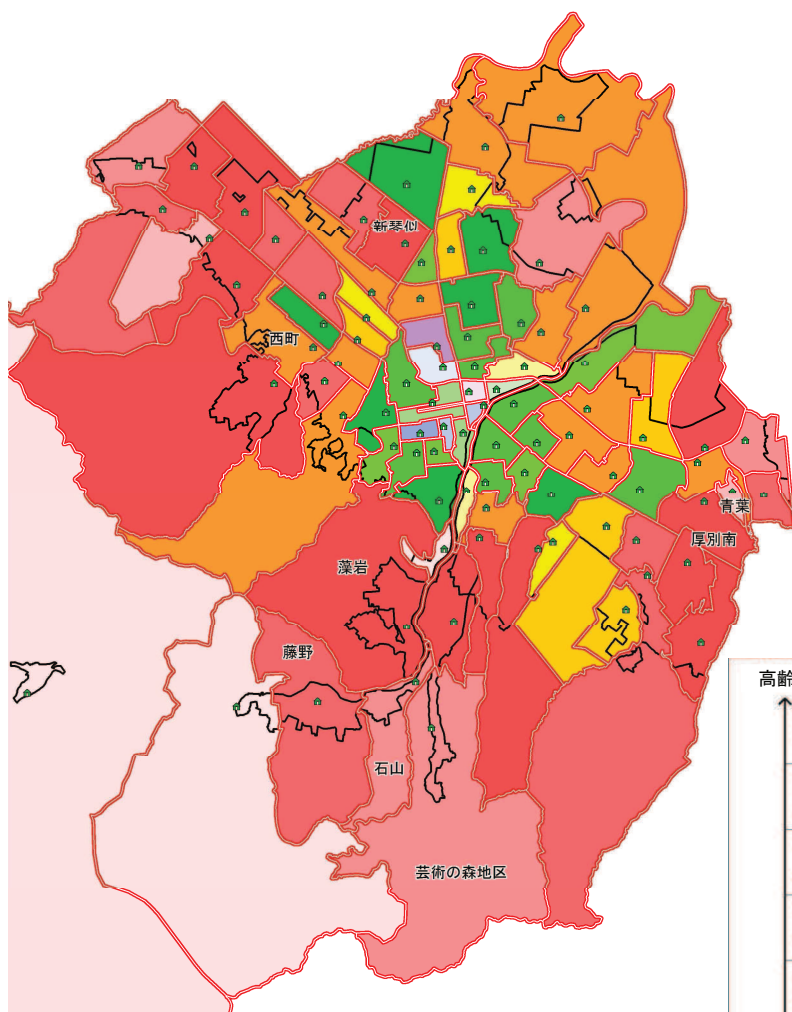
定山溪 (49.7%)、青葉 (48.2%)、石山 (45.5%)、芸術の森 (44.5%)

平成 42 (2030) 年度 (札幌市推計数値)

■解説

地下鉄沿線など一部を除き、高齢者が3人に1人の地域（赤）が顕著に多くなる。

この頃には市全体の人口減少の影響も出始め、老年人口の伸びは5年前と大きく変わらないが、依然として高齢化が進行し続けている。



■札幌市平均■

- ・ 老年人口 7,024 人 (平成 37 (2025) 年度対比 +327 人)

(まちづくりセンター区域単位)

-特に老年人口が多い地域

西町 (13,560 人)、新琴似 (13,530 人)、藻岩 (13,340 人)、厚別南 (13,010 人)

- ・ 高齢化率 33.2% (平成 37 (2025) 年度対比 +2.2 ポイント)

-特に高齢化率が高い地域

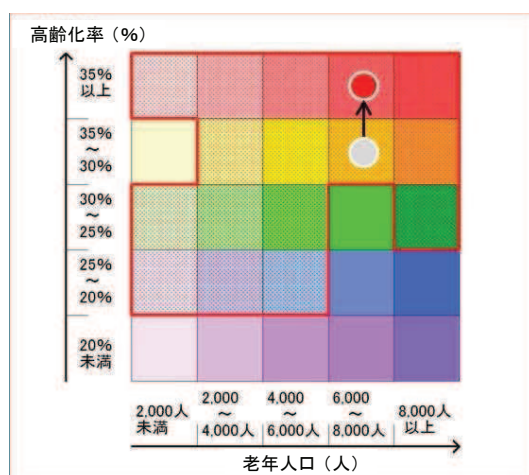
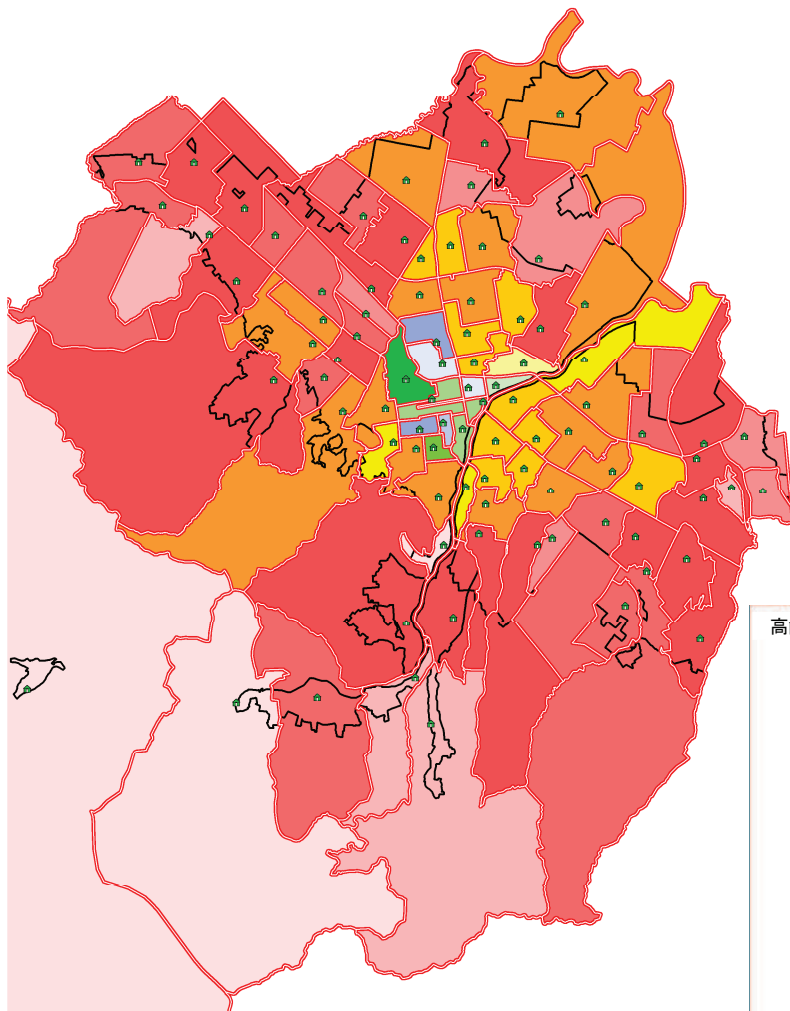
定山溪 (50.7%)、青葉 (48.4%)、石山 (47.4%)、芸術の森 (47.2%)

平成 47 (2035) 年度 (札幌市推計数値)

解説

市平均で35%を超え、厚別区、清田区、南区、手稲区では全地域で35%を超えている。

また、早くから高齢化率が高かった地域では、老年人口の減少も始まり、色合いが徐々に薄くなっている地域も見受けられる。



■札幌市平均■

- ・ 老年人口 7,331 人 (平成 42 (2030) 年度対比 +307 人)

(まちづくりセンター区域単位)

-特に老年人口が多い地域

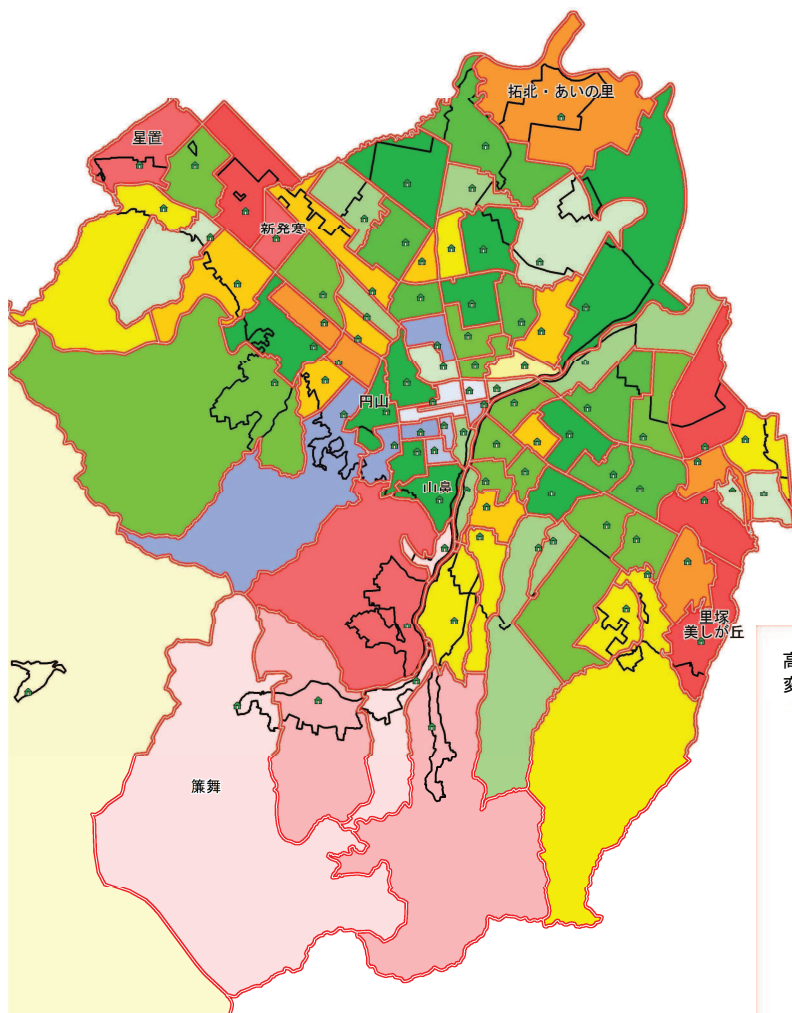
西町 (14,530 人)、厚別南 (13,560 人)、新琴似 (13,540 人)、藻岩 (12,930 人)

- ・ 高齢化率 35.6% (平成 42 (2030) 年度対比 +2.4 ポイント)

-特に高齢化率が高い地域

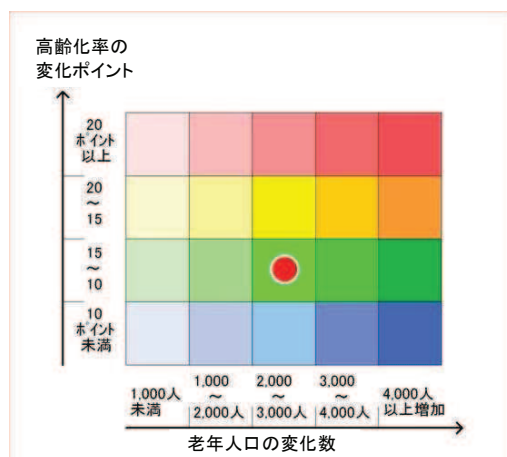
定山溪 (50.8%)、青葉 (49.4%)、芸術の森 (49.2%)、藤野 (49.2%)

平成 22 (2010) 年～平成 47 (2035) 年の老年人口の増加状況



解説

左図は、平成 22 (2010) 年 (国勢調査) の老年人口をベースに、平成 47 (2035) 年までの増加数を集計し、高齢化率の上昇状況とともに表示したものである。



高齢化率が高く、老年人口が特に多い地域は、南区や厚別区の地域を例として挙げているが、老年人口の増加数などで見ると、里塚・美しが丘や拓北あいの里、山鼻、円山など、清田区や中央区などにも着実に高齢化が及んでいくことが把握できる。

■札幌市平均■

高齢化率の変化：14.9 ポイント 老年人口の増加：2,828 人